



思考への探求

校内研究だより
令和6年10月30日
No.(4)

学ぶこと・考えることを楽しむ

～全教科で育てる「言葉の力」

思いを伝え受けとめ(個別最適な学び)ともに学ぶ(協働的な学び)子どもの育成～

10月30日、今年度4回目の校内研究を行った。「考えることを楽しむ」を研究のテーマとして、各教諭が言葉の力を意識して授業を考えて提案をしている。



2年2組では、古川教諭が国語科「お手紙」の単元の授業提案を行った。問いの意識を持たせることを念頭に置き、どうしてそう思ったのか、どの文章からそう考えたのかを叙述から読み解いていくように進めていた。児童たちは、「なぜ、かえるくんはかたつむりくんに手紙をたのんだのか」について、かたつむりくんよりも早く手紙を届けられそうなうさぎさんとの対比を考えていた。

うさぎさんと二人でお手紙を待つ幸せな時間がなかったなど、かたつむりくんだからこそ良かったところを叙述から見つけ出していた。



5年1組では、神嶋教諭が国語科「伝記を読み、自分の生き方について考えよう」の単元の授業提案を行った。頭の中にある自分のイメージを、思考ツールで可視化・整理をしながら言語化していく活動を行った。アンパンマンの作者である偉人、やなせたかし氏の生涯をまとめた伝記を2種類見比べてイメージマップにまとめていき、その後は心に響いた内容や言葉を「じーんポイント」として書き表

した。自分と偉人の共通点・差異点をじっくりと見つめ直すことができる充実した授業の時間となった。

研究協議会では、文教大学教育学部教授の甲斐雄一郎先生をお迎えし、授業の指導・講評をいただいた。授業の中で、教師が条件の設定をしすぎると子どもの選択の機会が減る、これが良い方に向かうこともあ



れば反対もあり、どちらを選ぶかは学級の様子や教師の配分にかかっている。また、論語の「これを如何せん、これを如何せんと言はざる者は、吾これをいかんともすることなきのみ。」を教えていただいた。どうか・どうしたらいいかを考えながら、子どもにとってより良い学びとなるような授業を展開していきたい。